

| | | | |
|-----|-----|------|--------|
| 教科 | 芸術 | 年度 | 平成31年度 |
| 科目名 | 音楽I | 学科学年 | 普通科 1年 |
| | | 履修単位 | 2単位 |

1. 学習の到達目標

- 1 音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高める。
- 2 感性を高め、音楽のよさや美しさを感じ取って、創造的な音楽活動を工夫することができる。
- 3 自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現することができる。
- 4 多様な音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に鑑賞することができる。

2. 教科書・副教材等

- ・使用教科書 教育芸術社/MOUSA1
- ・副教材 教育芸術社/The Basics of Music 2 訂版

3. 学習上の留意点

〔歌唱〕・姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法などを習得し、音楽表現と結び付けて歌うことを心がける。

- ・曲想と歌詞が表す情景や心情との関わりに関心を持ち、自分なりのイメージを持って歌う学習に主体的に取り組む。

〔器楽〕・音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。

- ・楽器の音色や奏法の特徴を生かして表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図を持ちながら創造的に表現する。

〔鑑賞〕・作品の文化的・歴史的背景や作曲者及び演奏者による表現の特徴に注目して鑑賞する

- ・物語の内容、登場人物の役割や心情などが声、楽器、舞踊などにより表現されていることに関心を持つ。

〔創作〕・表現したい音楽をイメージして音楽構成などを考え、どのような音楽を創るかについて表現意図を持ち、音楽表現を工夫する。

- ・音楽の諸要素を理解し、その特徴を生かしながら創作をするための技能を身に付ける。

○それぞれの活動において批評活動や意見交換を行うことにより、音楽に対する理解を深める。

4. 評価

| 評価の観点・趣旨 | | | |
|--|---|--|---|
| 音楽への 関心・意欲・態度 | 音楽表現の 創意工夫 | 音楽表現の技能 | 鑑賞の能力 |
| 音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じしながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽を作るかについて表現意図をもっている。 | 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけ、創造的に現わしている。 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。 |

5. 評価方法

上記の4観点に基づき、授業内での実技テストや筆記テスト、提出物、授業への参加意欲、出席状況を評価する。

6. 担当者からひとこと

授業は、歌唱・器楽・創作・鑑賞などの様々な活動を組み合わせて進めていきます。我々の日常生活の中に溢れている音や音楽をできるだけ多く吸収し、喜怒哀楽など様々な感情を音や音楽で自由に表現できる人間になってほしいと考えています。

7. 学習計画（1年普通科・普通科学究コース・食物科共通 音楽Ⅰ）

| 学期 | 月 | 領域 | 題材名 | 主な教材 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 | |
|-------|------|---------------|-------------------------|---------------------|---|--|-----------------------------------|---------------------------|
| 1 | 4 | 歌唱 | 音楽視野を広げよう | コンコーネ 50番、Ave Maria | ・曲種に応じた様々な発声の方法を習得する。 ・楽譜の正しい読み方を身に付ける。 | 4 | 観察・聴取 | |
| | 5 | 器楽 | リズムアンサンブル | Plymouth Rock | ・音符や休符の仕組みを理解する。・共通のイメージを持って、アンサンブルにふさわしい表現を考える。 | 5 | 観察・聴取 課題進度状況 実技考査 | |
| | 6 | | リコーダーアンサンブル | 見上げてごらん夜の星を、ポレロ | ・リコーダーの特徴を理解し、音色や奏法を工夫しながら演奏する。 | | | |
| | | | 歌唱 | 日本歌曲と諸外国の歌曲 | むこうむこう この道、Caro mio ben, Heidenröslein | ・作品の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現を工夫する。 ・歌と伴奏それぞれの役割を理解して独唱する。 | 5 | 観察・聴取 ワークシート 実技考査 |
| | | | 鑑賞 | 日本の伝統音楽 | 能「道明寺」 | ・様々な日本の伝統音楽について知る。・楽器の音色の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取る。 | 5 | 観察・聴取 ワークシート |
| | 7, 8 | 世界の諸民族の音楽 | | ①声による表現 ②楽器による表現 | ・声や楽器の音色の特徴と表現される。 ・音楽の効果との関わりを感じ取る。・それぞれの国や地域の音楽の特徴、曲想と音楽を形づくっている要素との関係、文化的・歴史的背景を理解する。 | 6 | | |
| 2 | 9 | 創作 | 楽典 | The Basics of Music | ・楽典の基礎的な内容を理解し、次の創作活動につなげる。(60～69 ページ) | 3 | 観察・聴取 課題進度状況 | |
| | 10 | | イメージを生かしてアレンジしよう | 創作5「音階を選んで旋律をつくろう」 | ・様々な五音音階について関心を持ち、雰囲気や違いについて考える。・音階の特徴を生かして旋律を作ったりその旋律に副次的な旋律やコードを付けたりし表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫する。 | 6 | | ワーク |
| | 11 | 器楽 | ギターにチャレンジ | なごり雪（弾き歌い） | ・ギターの正しい奏法を身に付け、タブ譜やコード表を見ながら演奏する。・楽曲にふさわしい歌い方を考えながら調和のとれた弾き歌いをする。 | 5 | 観察・聴取 実技考査 | |
| | 12 | | ギターアンサンブル | 第三の男のテーマ | ・パートの役割を理解し、音色の特徴を生かしながらアンサンブルをする。・音色、リズム、旋律、強弱など、音楽を形づくっている要素の知覚とそれらの働きを知る。 | 5 | | |
| | | | 歌唱 | 声楽アンサンブル | 願い ぼくはぼく 夢みたものは | ・ひとりひとりが主体的に歌い、各パートの役割やハーモニーを意識する。・共通のイメージを持って、楽曲にふさわしい表現を考える。 | 7 | 観察・聴取 課題進度状況 ワークシート |
| 3 | 1 | 鑑賞 | オペラに親しもう～鑑賞とアリアの演奏を通して～ | オペラ「カルメン」 | ・オペラに興味を持つとともに、音楽と様々な要素が集結して表現が生み出されていることを理解する。 ・歌唱や器楽の様々な組み合わせによる表現を味わう。 | 10 | 観察・聴取 課題進度状況 ワークシート 実技考査 | |
| | | | | ハバネラ | ・歌詞の内容や場面の状況、登場人物の心情などを理解したうえで、具体的なイメージを持って表現を工夫する。・ハバネラのリズムによって歌い、三連符やポルタメントなどの歌い方を考える。 | | | |
| | 2 | 創作 | レポート課題 | 「音楽と私のこれから」 | ・1年間の授業を通して学習したことを踏まえながら、自分自身と音楽との関わりを見つめ直し、今後、音楽をどのように育んでいくのかについて考える。 | 3 | 観察・聴取 レポート | |
| 3 | | | | | | | | |
| 年間時数計 | | 64 時間（55 分授業） | | | | | | |

| | | | |
|-----|------|-------|----------|
| 教 科 | 芸 術 | 年 度 | 平成 31 年度 |
| 科目名 | 美術 I | 学科 学年 | 普通科 1 年 |
| | | 履修単位 | 2 単位 |

1. 学習の到達目標

- ① 美術の創造活動を通して、感性を豊かにし、発想を表現する技術と生涯美術を愛好する心情を育てる。
- ② 創造や鑑賞といった美的体験を通して、美術文化についての理解を深める。

2. 教科書・副教材等

日本文教出版「高校生の美術 I」

※副教材は使用しない

3. 学習上の留意点

課題に自ら積極的に取り組むことにより、発見や学びを得ることができます。自分の中のイメージを形にするために、今までにない色や形を追求し、創造することが大切です。

また、人によりかかる時間は違います。自身の制作の見通しを持ち、授業に臨むことが大切です。

4. 評価

| 評価の観点 | | | |
|---|--|---|--|
| 美術への関心・意欲・態度 | 発想や構想の能力 | 創造的な技能 | 鑑賞の能力 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・美術文化や表現方法に関心を持ち、制作や鑑賞に主体的に取り組んでいる。 ・粘り強く作品制作に取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのイメージや意図を持ち、作品に生かそうとしている。 ・制作の意図を言葉にして表現できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・材料や技法の基礎知識を生かし、表現に用いている。 ・描写や造形の基礎能力を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品を味わい、理解や自らの見方を深めている。 ・美術作品・文化から感じた良さを言葉にして表現できる。 |

5. 評価方法

上記の 4 つの観点に基づき、授業への参加意欲や作品等の提出物、出席状況等を総合的に評価する。

6. 担当者からの一言

同じ課題でも、それを通じて表現したいものは一人一人違います。その違いを互いに認め合いながら、自身が持った発想に自身を持ってください。また、その発想を形にするために、一生懸命制作や技能の習得に臨むことを大切にしたいと思います。

学習計画 (1年・3年普通科・普通科学級コース・食物科共通)

| 学期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のねらい |
|-------|------|--|---|--|
| 一学期 | 4 | オリエンテーション | 1 | 活動内容を知り、1年間の学習を見通す。 |
| | | デッサンと色彩 | 2 | <input type="checkbox"/> 描き方の技術と色彩のしくみを学習し、表現の基礎的な力を高める。 <input type="checkbox"/> モチーフの見方や明暗表現の演習 <input type="checkbox"/> 色相環、三要素、色立体の学習 <input type="checkbox"/> 色の性質とその感情表現 |
| | 5 | 心象の自画像 〈絵画〉 | 20 | <input type="checkbox"/> 自己の心象をみつめ、自画像にそれを加えてその世界観を表現する。 <input type="checkbox"/> 人物の描き方の実習 <input type="checkbox"/> 自画像に夢や想像など抽象的な概念を加える <input type="checkbox"/> 色彩、構成を工夫して創造的な表現の構想を練る |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 〈鑑賞〉 | 2 | <input type="checkbox"/> 完成した心象の自画像を互いに鑑賞する。 <input type="checkbox"/> 作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深める | |
| 二学期 | 9 | 封入樹脂 (レジ ン) 〈彫刻・デザイ ン〉 立体構成・平面構 成〈デザイン〉 | 20 | <input type="checkbox"/> レジンに思い入れのあるものを封入し磨き上げることで、その形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現をする。 <input type="checkbox"/> レジンの形体・色彩と、入れるものの構成を工夫して創造的な表現の構想を練る <input type="checkbox"/> レジンの研磨に際し、その用具の特性と使い方を理解し、構想を確かめながら工夫して表現すること <input type="checkbox"/> 具象物を構成することで、美しさなどを考えて主題を生成する。 |
| | 10 | | | |
| | 11 | | | |
| | 12 | 〈鑑賞〉 | 2 | <input type="checkbox"/> 完成した封入樹脂や構成作品を互いに鑑賞する。 <input type="checkbox"/> 作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深める <input type="checkbox"/> 教科書の学習 <input type="checkbox"/> 日本の美術の歴史や表現の特質、日本及び諸外国の美術文化について理解を深める |
| 三学期 | 1 | 七宝 〈絵画〉 レリーフ | 15 | <input type="checkbox"/> 七宝制作で、色彩・構成などを工夫するとともに、意図に応じて材料や用具の特性を生かす。 <input type="checkbox"/> 七宝という表現形式の特性を生かし、ガラス質の輝きによる美しさを体験する。 <input type="checkbox"/> 意図に応じて釉薬や用具・手順などを検討し、創造的に制作する <input type="checkbox"/> レリーフ制作で、形体や色彩を工夫し、意図に応じて材料や用具の特性を生かした表現をする。 |
| | 2 | | | |
| | | 〈鑑賞〉 | 2 | <input type="checkbox"/> 完成した七宝やレリーフを互いに鑑賞する。 <input type="checkbox"/> 作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深める |
| 年間時数計 | | | 64時間 (55分授業) | |

| | | | |
|-----|------|-------|--------|
| 教科 | 芸術 | 年度 | 平成31年度 |
| 科目名 | 書道 I | 学科 学年 | 普通科 1年 |
| | | 履修単位 | 2単位 |

1 学習の到達目標

- 1.小、中学校国語科書写の学習を基礎としながら、書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。
- 2.書に親しむ活動を通して、感性を高め、自己を表現するための書道の基礎的な能力を伸ばしていく。
- 3.書的美しさを感じとる鑑賞の基礎的な能力を伸ばしていくとともに、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 教科書・副教材等

『書 I』（光村図書）

3 学習上の留意点

- 1.授業開始までに、使用する道具を机上に準備しておく。また、授業には筆記用具を持参する。
- 2.道具の管理、片付けをきちんと行う。
- 3.授業開始、終了の挨拶はもちろんのこと、教室への入退場の際も挨拶を心掛ける。

4 評価

1.書への関心・意欲・態度

書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

2.書表現の構想と工夫

書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。

3.創造的な書表現の技能

創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。

4.鑑賞の能力

日常生活の書の効果や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

5 評価方法

上記の4つの観点に基づき、提出作品を中心とし、提出プリントの取り組み内容や、授業への参加意欲、出席状況等を総合的に評価する。

6 担当者からひとこと

高等学校芸術科「書道」の授業では、中国や日本の書の古典にふれて、様々な書表現を学びます。さらに、それらをふまえて自分で選んだ言葉で創作作品を制作します。書道の広くて奥深い世界を一緒に学びましょう。

| 期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のねらい | 考査 |
|---------------|----------------------|--------------------------------|---------------------------------------|---|------------|
| 一学期 | 4 | 仮名の学習 | | | 授業内試験 ① |
| | | ・文房四宝について、磨墨の方法 | 1 | ・伸びやかな線でリズムよく、平仮名、変体仮名の単体を書けるようにする。 | |
| | ・姿勢、執筆法、仮名の基本用筆 | 1 | ・蓬莱切の臨書により、放ち書きや連綿、行書きの基本を学ぶ。 | | |
| | 5 | ・平仮名、変体仮名 | 3 | ・俳句を用いて、連綿や構成を工夫した作品制作をする。 | |
| | | ・蓬莱切の臨書 | 2 | | |
| | | ・俳句を用いた作品制作、展示 | 4 | | |
| 6 | 楷書の学習 | | | | |
| | ・執筆法、楷書の基本用筆 | 1 | ・書体の変遷や様々な楷書の古典に触れ、書の歴史と表現の広さを知る。 | | |
| | ・書体の変遷、様々な楷書の古典 | 1 | ・「九成宮醴泉銘」では、鋭い線と引き締まった背勢の字形を学ぶ。 | | |
| 7 | ・「九成宮醴泉銘」の臨書 | 4 | | | |
| | ・「顔氏家廟碑」の臨書 | 4 | ・「顔氏家廟碑」では、太く丸み帯びた線と、外側に膨らんだ向勢の字形を学ぶ。 | | |
| 二学期 | 9 | 篆刻の学習 | | | 授業内試験 ② |
| | | ・篆刻について、篆書の特徴 | 1 | ・姓名印の作成により、自分の名前の篆書体を知る。また、篆書の特徴をふまえて印稿を作成する。 | |
| | | ・印面整備、検字、印稿づくり | 3 | | |
| | | ・布字、運刀 | 2 | ・正しい運刀で印を刻す。 | |
| | | ・押印、補刀 | 1 | ・でき上がった印は、創作作品などに押印して使用する。 | |
| | ・印箋に押印、展示 | 1 | | | |
| | 10 | 行書の学習 | | | |
| | | ・行書の基本用筆 | 2 | ・行書の特徴である「流れ」を意識して運筆する。また楷書との字形の違いを学ぶ。 | |
| 11 | ・「蘭亭序」の臨書 | 5 | | | |
| | ・「風信帖」の臨書 | 5 | ・「蘭亭序」では流麗さを、「風信帖」では抑揚を意識して臨書する。 | | |
| 12 | 行書の作品制作（四字熟語） | | | | |
| | ・検字、草稿づくり | 2 | ・行書の古典の臨書で学んだことを生かし、自分で選んだ四字熟語を行書で書く。 | | |
| | ・半紙練習 | 2 | | | |
| | ・八つ切り用紙に清書、押印 | 2 | ・発表を通して、自分や他の生徒の作品を鑑賞する。 | | |
| | ・展示、発表 | 1 | | | |
| | 年賀状の制作 | 3 | ・生活の中で毛筆の文字を生かす。 | | |
| 三学期 | 1 | 漢字仮名交じり書の学習 | | | 授業内試験 ③ |
| | | ・様々な線質で平仮名を書く | 1 | ・言葉を効果的に魅せる書表現ができるように、様々な線質や作品構成を学ぶ。 | |
| | ・様々な紙面構成 | 2 | ・自分で選んだ詩文の内容にあった書表現を目指し、書風や作品構成を工夫する。 | | |
| | 2 | ・詩文の選定、草稿づくり | 1 | | |
| | | ・作品制作、押印 | 4 | ・発表を通して、自分や他の生徒の作品を鑑賞する。 | |
| ・裏打ち作業、発表原稿書き | 1 | | | | |
| 3 | ・展示、発表 | 1 | | | |
| | 手紙文の学習（硬筆） | | | | |
| ・手紙の形式、実作 | 3 | ・正式な手紙の形式について学び、実生活に生かせるようにする。 | | | |
| 時数計 | | | 64 | | |
| (55分授業) | | | | | |

| | | | |
|-----|-----|------|-------------|
| 教科 | 芸術 | 年度 | 平成31年度 |
| 科目名 | 音楽I | 学科学年 | 普通科学究コース 1年 |
| | | 履修単位 | 2単位 |

1. 学習の到達目標

- 1 音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高める。
- 2 感性を高め、音楽のよさや美しさを感じ取って、創造的な音楽活動を工夫することができる。
- 3 自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現することができる。
- 4 多様な音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に鑑賞することができる。

2. 教科書・副教材等

- ・使用教科書 教育芸術社/MOUSA1
- ・副教材 教育芸術社/The Basics of Music 2 訂版

3. 学習上の留意点

〔歌唱〕・姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法などを習得し、音楽表現と結び付けて歌うことを心がける。

- ・曲想と歌詞が表す情景や心情との関わりに関心を持ち、自分なりのイメージを持って歌う学習に主体的に取り組む。

〔器楽〕・音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。

- ・楽器の音色や奏法の特徴を生かして表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図を持ちながら創造的に表現する。

〔鑑賞〕・作品の文化的・歴史的背景や作曲者及び演奏者による表現の特徴に注目して鑑賞する

- ・物語の内容、登場人物の役割や心情などが声、楽器、舞踊などにより表現されていることに関心を持つ。

〔創作〕・表現したい音楽をイメージして音楽構成などを考え、どのような音楽を創るかについて表現意図を持ち、音楽表現を工夫する。

- ・音楽の諸要素を理解し、その特徴を生かしながら創作をするための技能を身に付ける。

○それぞれの活動において批評活動や意見交換を行うことにより、音楽に対する理解を深める。

4. 評価

| 評価の観点・趣旨 | | | |
|--|---|--|--|
| 音楽への 関心・意欲・態度 | 音楽表現の 創意工夫 | 音楽表現の技能 | 鑑賞の能力 |
| 音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じしながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽を作るかについて表現意図をもっている。 | 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけ、創造的に現わしている。 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じしながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。 |

5. 評価方法

上記の4観点に基づき、授業内での実技テストや筆記テスト、提出物、授業への参加意欲、出席状況を評価する。

6. 担当者からひとこと

授業は、歌唱・器楽・創作・鑑賞などの様々な活動を組み合わせて進めていきます。我々の日常生活の中に溢れている音や音楽をできるだけ多く吸収し、喜怒哀楽など様々な感情を音や音楽で自由に表現できる人間になってほしいと考えています。

| 学期 | 月 | 領域 | 題材名 | 主な教材 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|-------|---------|---------------|---|---|---|----|-----------------------------------|
| 1 | 4 | 歌 唱 | 音楽視野を 広げよう | コンコーネ 50 番、Ave Maria | ・曲種に応じた様々な発声の方法を習得する。 ・楽譜の正しい読み方を身に付ける。 | 4 | 観察・聴取 |
| | 5 | 器 楽 | リズムアン サンブル | Plymouth Rock | ・音符や休符の仕組みを理解する。・共通のイメージを持 って、アンサンブルにふさわしい表現を考える。 | 5 | 観察・聴取 課題進捗状況 実技考査 |
| | 6 | | リコーダーア ンサンブル | 見上げてごらん夜 の星を、ポレロ | ・リコーダーの特徴を理解し、音色や奏法を工夫しなが ら演奏する。 | | |
| | | 歌 唱 | 日本歌曲と 諸外国の歌 曲 | むこうむこう この道、Caro mio ben,Heidenröslein | ・作品の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現を工夫 する。 ・歌と伴奏それぞれの役割を理解して独唱する。 | 5 | 観察・聴取 ワークシート 実技考査 |
| | | 鑑 賞 | 日本の伝統 音楽 | 能「道明寺」 | ・様々な日本の伝統音楽について知る。・楽器の音色の特 徴と表現上の効果との関わりを感じ取る。 | 5 | 観察・聴取 ワークシート |
| | 7, 8 | | 世界の諸民 族の音楽 | ①声による表現 ②楽器による表 現 | ・声や楽器の音色の特徴と表現される。 ・音楽の効果との関わりを感じ取る。・それぞれの国や地 域の音楽の特徴、曲想と音楽を形づくっている要素との 関係、文化的・歴史的背景を理解する。 | 6 | |
| 2 | 9 | 創 作 | 楽典 | The Basics of Music | ・楽典の基礎的な内容を理解し、次の創作活動につなげ る。(60～69 ページ) | 3 | 観察・聴取 課題進捗状況 |
| | 10 | | イメージを 生かしてア レンジしよ う | 創作5「音階を 選んで旋律をつ くろう」 | ・様々な五音音階について関心を持ち、雰囲気や違いに ついて考える。・音階の特徴を生かして旋律を作ったりそ の旋律に副次的な旋律やコードを付けたりし表現したい 音楽をイメージして音楽表現を工夫する。 | 6 | |
| | 11 | 器 楽 | ギターにチ ャレンジ | なごり雪（弾き 歌い） | ・ギターの正しい奏法を身に付け、タブ譜やコード表を 見ながら演奏する。・楽曲にふさわしい歌い方を考えなが ら調和のとれた弾き歌いをする。 | 5 | 観察・聴取 実技考査 |
| | 12 | | ギターアン サンブル | 第三の男のテー マ | ・パートの役割を理解し、音色の特徴を生かしながらア ンサンブルをする。・音色、リズム、旋律、強弱など、音 楽を形づくっている要素の知覚とそれらの働きを知る。 | 5 | |
| | | 歌 唱 | 声楽アンサ ンブル | 願い ぼくはぼく 夢みたものは | ・ひとりひとりが主体的に歌い、各パートの役割やハー モニーを意識する。・共通のイメージを持って、楽曲にふ さわしい表現を考える。 | 7 | 観察・聴取 課題進捗状況 ワークシート |
| 3 | 1 | 鑑 賞 | オペラに親 しもう～鑑 賞とアリア の演奏を通 して～ | オペラ「カルメ ン」 | ・オペラに興味を持つとともに、音楽と様々な要素が集 結して表現が生み出されていることを理解する。 ・歌唱や器楽の様々な組み合わせによる表現を味わう。 | 10 | 観察・聴取 課題進捗状況 ワークシート 実技考査 |
| | | | | ハバネラ | ・歌詞の内容や場面の状況、登場人物の心情などを理解 したうえで、具体的なイメージを持って表現を工夫す る。・ハバネラのリズムによって歌い、三連符やポルタメ ントなどの歌い方を考える。 | | |
| | 2 | 創 作 | レポート課 題 | 「音楽と私のこ れから」 | ・1年間の授業を通して学習したことを踏まえながら、自 分自身と音楽との関わりを見つめ直し、今後、音楽をど のように育てていくのかについて考える。 | 3 | 観察・聴取 レポート |
| | 3 | | | | | | |
| 年間時数計 | | 64 時間（55 分授業） | | | | | |

| | | | |
|-----|------|-------|--------------|
| 教 科 | 芸 術 | 年 度 | 平成 31 年度 |
| 科目名 | 美術 I | 学科 学年 | 普通科学究コース 1 年 |
| | | 履修単位 | 2 単位 |

1. 学習の到達目標

- ① 美術の創造活動を通して、感性を豊かにし、発想を表現する技術と生涯美術を愛好する心情を育てる。
- ② 創造や鑑賞といった美的体験を通して、美術文化についての理解を深める。

2. 教科書・副教材等

日本文教出版「高校生の美術 I」

※副教材は使用しない

3. 学習上の留意点

課題に自ら積極的に取り組むことにより、発見や学びを得ることができます。自分の中のイメージを形にするために、今までにない色や形を追求し、創造することが大切です。

また、人によりかかる時間は違います。自身の制作の見通しを持ち、授業に臨むことが大切です。

4. 評価

| 評価の観点 | | | |
|---|--|---|--|
| 美術への関心・意欲・態度 | 発想や構想の能力 | 創造的な技能 | 鑑賞の能力 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・美術文化や表現方法に関心を持ち、制作や鑑賞に主体的に取り組んでいる。 ・粘り強く作品制作に取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのイメージや意図を持ち、作品に生かそうとしている。 ・制作の意図を言葉にして表現できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・材料や技法の基礎知識を生かし、表現に用いている。 ・描写や造形の基礎能力を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品を味わい、理解や自らの見方を深めている。 ・美術作品・文化から感じた良さを言葉にして表現できる。 |

5. 評価方法

上記の 4 つの観点に基づき、授業への参加意欲や作品等の提出物、出席状況等を総合的に評価する。

6. 担当者からの一言

同じ課題でも、それを通じて表現したいものは一人一人違います。その違いを互いに認め合いながら、自身が持った発想に自身を持ってください。また、その発想を形にするために、一生懸命制作や技能の習得に臨むことを大切にしてほしいと思います。

学習計画 (1年・3年普通科・普通科学級コース・食物科共通)

| 学期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のねらい |
|-------|----|----------------------|--------------|--|
| 一学期 | 4 | オリエンテーション | 1 | 活動内容を知り、1年間の学習を見通す。 |
| | | デッサンと色彩 | 2 | <input type="checkbox"/> 描き方の技術と色彩のしくみを学習し、表現の基礎的な力を高める。 ○モチーフの見方や明暗表現の演習 ○色相環、三要素、色立体の学習 ○色の性質とその感情表現 |
| | 5 | 心象の自画像 | 20 | <input type="checkbox"/> 自己の心象をみつめ、自画像にそれを加えてその世界観を表現する。 ○人物の描き方の実習 ○自画像に夢や想像など抽象的な概念を加える ○色彩、構成を工夫して創造的な表現の構想を練る |
| | 6 | 〈絵画〉 | | |
| | 7 | | | |
| | | 〈鑑賞〉 | 2 | <input type="checkbox"/> 完成した心象の自画像を互いに鑑賞する。 ○作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深める |
| 二学期 | 9 | 封入樹脂 (レジ ン) | 20 | <input type="checkbox"/> レジンに思い入れのあるものを封入し磨き上げることで、その形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現をする。 ○レジンの形体・色彩と、入れるものの構成を工夫して創造的な表現の構想を練る ○レジンの研磨に際し、その用具の特性と使い方を理解し、構想を確かめながら工夫して表現すること <input type="checkbox"/> 具象物を構成することで、美しさなどを考えて主題を生成する。 |
| | 10 | 〈彫刻・デザイ ン〉 | | |
| | 11 | 立体構成・平面構 成 〈デザイン〉 | | |
| | 12 | 〈鑑賞〉 | 2 | <input type="checkbox"/> 完成した封入樹脂や構成作品を互いに鑑賞する。 ○作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深める <input type="checkbox"/> 教科書の学習 ○日本の美術の歴史や表現の特質、日本及び諸外国の美術文化について理解を深める |
| 三学期 | 1 | 七宝 〈絵画〉 | 15 | <input type="checkbox"/> 七宝制作で、色彩・構成などを工夫するとともに、意図に応じて材料や用具の特性を生かす。 ○七宝という表現形式の特性を生かし、ガラス質の輝きによる美しさを体験する。 ○意図に応じて釉薬や用具・手順などを検討し、創造的に制作する <input type="checkbox"/> レリーフ制作で、形体や色彩を工夫し、意図に応じて材料や用具の特性を生かした表現をする。 |
| | 2 | レリーフ 〈彫刻〉 | | |
| | | 〈鑑賞〉 | 2 | <input type="checkbox"/> 完成した七宝やレリーフを互いに鑑賞する。 ○作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深める |
| 年間時数計 | | | 64時間 (55分授業) | |

| | | | |
|-----|------|-------|------------|
| 教科 | 芸術 | 年度 | 平成31年度 |
| 科目名 | 書道 I | 学科 学年 | 普通科学究コース1年 |
| | | 履修単位 | 2単位 |

1 学習の到達目標

- 1.小、中学校国語科書写の学習を基礎としながら、書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。
- 2.書に親しむ活動を通して、感性を高め、自己を表現するための書道の基礎的な能力を伸ばしていく。
- 3.書的美しさを感じとる鑑賞の基礎的な能力を伸ばしていくとともに、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 教科書・副教材等

『書 I』（光村図書）

3 学習上の留意点

- 1.授業開始までに、使用する道具を机上に準備しておく。また、授業には筆記用具を持参する。
- 2.道具の管理、片付けをきちんと行う。
- 3.授業開始、終了の挨拶はもちろんのこと、教室への入退場の際も挨拶を心掛ける。

4 評価

1.書への関心・意欲・態度

書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

2.書表現の構想と工夫

書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。

3.創造的な書表現の技能

創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。

4.鑑賞の能力

日常生活の書の効果や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

5 評価方法

上記の4つの観点に基づき、提出作品を中心とし、提出プリントの取り組み内容や、授業への参加意欲、出席状況等を総合的に評価する。

6 担当者からひとこと

高等学校芸術科「書道」の授業では、中国や日本の書の古典にふれて、様々な書表現を学びます。さらに、それらをふまえて自分で選んだ言葉で創作作品を制作します。書道の広くて奥深い世界を一緒に学びましょう。

| 期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のねらい | 考查 |
|---------------|----------------------|--------------------------|---------------------------------------|---|--------|
| 一学期 | 4 | 仮名の学習 | | | 授業内試験① |
| | | ・文房四宝について、磨墨の方法 | 1 | ・伸びやかな線でリズムよく、平仮名、変体仮名の単体を書けるようにする。 | |
| | ・姿勢、執筆法、仮名の基本用筆 | 1 | ・蓬萊切の臨書により、放ち書きや連綿、行書きの基本を学ぶ。 | | |
| | 5 | ・平仮名、変体仮名 | 3 | ・俳句を用いて、連綿や構成を工夫した作品制作をする。 | |
| | | ・蓬萊切の臨書 | 2 | | |
| | | ・俳句を用いた作品制作、展示 | 4 | | |
| 6 | 楷書の学習 | | | | |
| | ・執筆法、楷書の基本用筆 | 1 | ・書体の変遷や様々な楷書の古典に触れ、書の歴史と表現の広さを知る。 | | |
| 7 | ・書体の変遷、様々な楷書の古典 | 1 | ・「九成宮醴泉銘」では、鋭い線と引き締まった背勢の字形を学ぶ。 | | |
| | ・「九成宮醴泉銘」の臨書 | 4 | ・「顔氏家廟碑」では、太く丸み帯びた線と、外側に膨らんだ向勢の字形を学ぶ。 | | |
| 二学期 | 9 | 篆刻の学習 | | | 授業内試験② |
| | | ・篆刻について、篆書の特徴 | 1 | ・姓名印の作成により、自分の名前の篆書体を知る。また、篆書の特徴をふまえて印稿を作成する。 | |
| | | ・印面整備、検字、印稿づくり | 3 | ・正しい運刀で印を刻す。 | |
| | | ・布字、運刀 | 2 | ・でき上がった印は、創作作品などに押印して使用する。 | |
| | | ・押印、補刀 | 1 | | |
| | ・印箋に押印、展示 | 1 | | | |
| | 10 | 行書の学習 | | | |
| | 11 | ・行書の基本用筆 | 2 | ・行書の特徴である「流れ」を意識して運筆する。また楷書との字形の違いを学ぶ。 | |
| 12 | ・「蘭亭序」の臨書 | 5 | ・「蘭亭序」では流麗さを、「風信帖」では抑揚を意識して臨書する。 | | |
| | ・「風信帖」の臨書 | 5 | | | |
| | 行書の作品制作（四字熟語） | | | | |
| | ・検字、草稿づくり | 2 | ・行書の古典の臨書で学んだことを生かし、自分で選んだ四字熟語を行書で書く。 | | |
| ・半紙練習 | 2 | ・発表を通して、自分や他の生徒の作品を鑑賞する。 | | | |
| ・八つ切り用紙に清書、押印 | 2 | | | | |
| ・展示、発表 | 1 | | | | |
| ・年賀状の制作 | 3 | ・生活の中で毛筆の文字を生かす。 | | | |
| 三学期 | 1 | 漢字仮名交じり書の学習 | | | 授業内試験③ |
| | | ・様々な線質で平仮名を書く | 1 | ・言葉を効果的に魅せる書表現ができるように、様々な線質や作品構成を学ぶ。 | |
| | ・様々な紙面構成 | 2 | ・自分で選んだ詩文の内容にあった書表現を目指し、書風や作品構成を工夫する。 | | |
| | 2 | ・詩文の選定、草稿づくり | 1 | ・発表を通して、自分や他の生徒の作品を鑑賞する。 | |
| | | ・作品制作、押印 | 4 | | |
| 3 | ・裏打ち作業、発表原稿書き | 1 | | | |
| | ・展示、発表 | 1 | | | |
| | | 手紙文の学習（硬筆） | | | |
| | | ・手紙の形式、実作 | 3 | ・正式な手紙の形式について学び、実生活に生かせるようにする。 | |
| 時数計 | | | 64 | | |
| (55分授業) | | | | | |

| | | | |
|-----|------|------|--------|
| 教科 | 芸術 | 年度 | 平成31年度 |
| 科目名 | 音楽 I | 学科学年 | 食物科 3年 |
| | | 履修単位 | 2単位 |

1. 学習の到達目標

- 音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高める。
- 感性を高め、音楽のよさや美しさを感じ取って、創造的な音楽活動を工夫することができる。
- 自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現することができる。
- 多様な音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に鑑賞することができる。

2. 教科書・副教材等

- ・使用教科書 教育芸術社/MOUSA1
- ・副教材 教育芸術社/The Basics of Music 2 訂版

3. 学習上の留意点

〔歌唱〕・姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法などを習得し、音楽表現と結び付けて歌うことを心がける。

- ・曲想と歌詞が表す情景や心情との関わりに関心を持ち、自分なりのイメージを持って歌う学習に主体的に取り組む。

〔器楽〕・音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。

- ・楽器の音色や奏法の特徴を生かして表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図を持ちながら創造的に表現する。

〔鑑賞〕・作品の文化的・歴史的背景や作曲者及び演奏者による表現の特徴に注目して鑑賞する

- ・物語の内容、登場人物の役割や心情などが声、楽器、舞踊などにより表現されていることに関心を持つ。

〔創作〕・表現したい音楽をイメージして音楽構成などを考え、どのような音楽を創るかについて表現意図を持ち、音楽表現を工夫する。

- ・音楽の諸要素を理解し、その特徴を生かしながら創作をするための技能を身に付ける。

○それぞれの活動において批評活動や意見交換を行うことにより、音楽に対する理解を深める。

4. 評価

| 評価の観点・趣旨 | | | |
|--|---|--|---|
| 音楽への 関心・意欲・態度 | 音楽表現の 創意工夫 | 音楽表現の技能 | 鑑賞の能力 |
| 音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じしながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽を作るかについて表現意図をもっている。 | 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけ、創造的に現わしている。 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わって聴いている。 |

5. 評価方法

上記の4観点に基づき、授業内での実技テストや筆記テスト、提出物、授業への参加意欲、出席状況を評価する。

6. 担当者からひとこと

授業は、歌唱・器楽・創作・鑑賞などの様々な活動を組み合わせて進めていきます。我々の日常生活の中に溢れている音や音楽をできるだけ多く吸収し、喜怒哀楽など様々な感情を音や音楽で自由に表現できる人間になってほしいと考えています。

| 学期 | 月 | 領域 | 題材名 | 主な教材 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 | |
|-------|---------|----------------|------------------------------|----------------------------|---|--|-----------------------------------|---------------------------|
| 1 | 4 | 歌 唱 | 音楽視野を 広げよう | コンコーネ 50 番、Ave Maria | ・曲種に応じた様々な発声の方法を習得する。 ・楽譜の正しい読み方を身に付ける。 | 4 | 観察・聴取 | |
| | 5 | 器 楽 | リズムアン サンブル | Plymouth Rock | ・音符や休符の仕組みを理解する。・共通のイメージを持 って、アンサンブルにふさわしい表現を考える。 | 5 | 観察・聴取 課題進度状況 実技考査 | |
| | 6 | | リコーダーア ンサンブル | 見上げてごらん夜 の星を、ボレロ | ・リコーダーの特徴を理解し、音色や奏法を工夫しなが ら演奏する。 | | | |
| | | | 歌 唱 | 日本歌曲と 諸外国の歌 曲 | むこうむこう この道、Caro mio ben, Heidenröslein | ・作品の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現を工夫 する。 ・歌と伴奏それぞれの役割を理解して独唱する。 | 5 | 観察・聴取 ワークシート 実技考査 |
| | | | 鑑 賞 | 日本の伝統 音楽 | 能「道明寺」 | ・様々な日本の伝統音楽について知る。・楽器の音色の特 徴と表現上の効果との関わりを感じ取る。 | 5 | 観察・聴取 ワークシート |
| | 7, 8 | 世界の諸民 族の音楽 | | ①声による表現 ②楽器による表 現 | ・声や楽器の音色の特徴と表現される。 ・音楽の効果との関わりを感じ取る。・それぞれの国や地 域の音楽の特徴、曲想と音楽を形づくっている要素との 関係、文化的・歴史的背景を理解する。 | 6 | | |
| 2 | 9 | 創 作 | 楽典 | The Basics of Music | ・楽典の基礎的な内容を理解し、次の創作活動につなげ る。(60～69 ページ) | 3 | 観察・聴取 課題進度状況 | |
| | 10 | | イメージを 生かしてア レンジしよ う | 創作5「音階を 選んで旋律をつ くろう」 | ・様々な五音音階について関心を持ち、雰囲気や違いに ついて考える。・音階の特徴を生かして旋律を作ったりそ の旋律に副次的な旋律やコードを付けたりし表現したい 音楽をイメージして音楽表現を工夫する。 | 6 | | ワーク |
| | 11 | 器 楽 | ギターにチ ャレンジ | なごり雪 (弾き 歌い) | ・ギターの正しい奏法を身に付け、タブ譜やコード表を 見ながら演奏する。・楽曲にふさわしい歌い方を考えなが ら調和のとれた弾き歌いをする。 | 5 | 観察・聴取 実技考査 | |
| | 12 | | ギターアン サンブル | 第三の男のテー マ | ・パートの役割を理解し、音色の特徴を生かしながらア ンサンブルをする。・音色、リズム、旋律、強弱など、音 楽を形づくっている要素の知覚とそれらの働きを知る。 | 5 | | |
| | | | 歌 唱 | 声楽アンサ ンブル | 願い ぼくはぼく 夢みたものは | ・ひとりひとりが主体的に歌い、各パートの役割やハー モニーを意識する。・共通のイメージを持って、楽曲にふ さわしい表現を考える。 | 7 | 観察・聴取 課題進度状況 ワークシート |
| 3 | 1 | 鑑 賞 | オペラに親 しもう～鑑 賞とアリア | オペラ「カルメ ン」 | ・オペラに興味を持つとともに、音楽と様々な要素が集 結して表現が生み出されていることを理解する。 ・歌唱や器楽の様々な組み合わせによる表現を味わう。 | 10 | 観察・聴取 課題進度状況 ワークシート 実技考査 | |
| | | | の演奏を通 して～ | ハバネラ | ・歌詞の内容や場面の状況、登場人物の心情などを理解 したうえで、具体的なイメージを持って表現を工夫す る。・ハバネラのリズムにのって歌い、三連符やポルタメ ントなどの歌い方を考える。 | | | |
| | 2 | | | | | | | |
| | 3 | 創 作 | レポート課 題 | 「音楽と私のこ れから」 | ・1年間の授業を通して学習したことを踏まえながら、自 分自身と音楽との関わりを見つめ直し、今後、音楽をど のように育てていくのかについて考える。 | 3 | 観察・聴取 レポート | |
| 年間時数計 | | 64 時間 (55 分授業) | | | | | | |

| | | | |
|-----|------|-------|----------|
| 教 科 | 芸 術 | 年 度 | 平成 31 年度 |
| 科目名 | 美術 I | 学科 学年 | 食物科 3 年 |
| | | 履修単位 | 2 単位 |

1. 学習の到達目標

- ① 美術の創造活動を通して、感性を豊かにし、発想を表現する技術と生涯美術を愛好する心情を育てる。
- ② 創造や鑑賞といった美的体験を通して、美術文化についての理解を深める。

2. 教科書・副教材等

日本文教出版「高校生の美術 I」

※副教材は使用しない

3. 学習上の留意点

課題に自ら積極的に取り組むことにより、発見や学びを得ることができます。自分の中のイメージを形にするために、今までにない色や形を追求し、創造することが大切です。

また、人によりかかる時間は違います。自身の制作の見通しを持ち、授業に臨むことが大切です。

4. 評価

| 評価の観点 | | | |
|---|--|---|--|
| 美術への関心・意欲・態度 | 発想や構想の能力 | 創造的な技能 | 鑑賞の能力 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・美術文化や表現方法に関心を持ち、制作や鑑賞に主体的に取り組んでいる。 ・粘り強く作品制作に取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのイメージや意図を持ち、作品に生かそうとしている。 ・制作の意図を言葉にして表現できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・材料や技法の基礎知識を生かし、表現に用いている。 ・描写や造形の基礎能力を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品を味わい、理解や自らの見方を深めている。 ・美術作品・文化から感じた良さを言葉にして表現できる。 |

5. 評価方法

上記の 4 つの観点に基づき、授業への参加意欲や作品等の提出物、出席状況等を総合的に評価する。

6. 担当者からの一言

同じ課題でも、それを通じて表現したいものは一人一人違います。その違いを互いに認め合いながら、自身が持った発想に自身を持ってください。また、その発想を形にするために、一生懸命制作や技能の習得に臨むことを大切にしたいと思います。

学習計画 (1年・3年普通科・普通科学級コース・食物科共通)

| 学期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のねらい |
|-------|------|-----------------|---|--|
| 一学期 | 4 | オリエンテーション | 1 | 活動内容を知り、1年間の学習を見通す。 |
| | | デッサンと色彩 | 2 | <input type="checkbox"/> 描き方の技術と色彩のしくみを学習し、表現の基礎的な力を高める。 ○モチーフの見方や明暗表現の演習 ○色相環、三要素、色立体の学習 ○色の性質とその感情表現 |
| | 5 | 心象の自画像 | 20 | <input type="checkbox"/> 自己の心象をみつめ、自画像にそれを加えてその世界観を表現する。 ○人物の描き方の実習 ○自画像に夢や想像など抽象的な概念を加える ○色彩、構成を工夫して創造的な表現の構想を練る |
| | 6 | 〈絵画〉 | | |
| | 7 | | | |
| | 〈鑑賞〉 | 2 | <input type="checkbox"/> 完成した心象の自画像を互いに鑑賞する。 ○作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深める | |
| 二学期 | 9 | 封入樹脂(レジン) | 20 | <input type="checkbox"/> レジンに思い入れのあるものを封入し磨き上げることで、その形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現をする。 ○レジンの形体・色彩と、入れるものの構成を工夫して創造的な表現の構想を練る ○レジンの研磨に際し、その用具の特性と使い方を理解し、構想を確かめながら工夫して表現すること <input type="checkbox"/> 具象物を構成することで、美しさなどを考えて主題を生成する。 |
| | 10 | 〈彫刻・デザイン〉 | | |
| | 11 | 立体構成・平面構成〈デザイン〉 | | |
| | 12 | 〈鑑賞〉 | 2 | <input type="checkbox"/> 完成した封入樹脂や構成作品を互いに鑑賞する。 ○作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深める <input type="checkbox"/> 教科書の学習 ○日本の美術の歴史や表現の特質、日本及び諸外国の美術文化について理解を深める |
| 三学期 | 1 | 七宝 〈絵画〉 | 15 | <input type="checkbox"/> 七宝制作で、色彩・構成などを工夫するとともに、意図に応じて材料や用具の特性を生かす。 ○七宝という表現形式の特性を生かし、ガラス質の輝きによる美しさを体験する。 ○意図に応じて釉薬や用具・手順などを検討し、創造的に制作する <input type="checkbox"/> レリーフ制作で、形体や色彩を工夫し、意図に応じて材料や用具の特性を生かした表現をする。 |
| | 2 | レリーフ 〈彫刻〉 | | |
| | | 〈鑑賞〉 | 2 | <input type="checkbox"/> 完成した七宝やレリーフを互いに鑑賞する。 ○作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深める |
| 年間時数計 | | | 64時間 (55分授業) | |

| | | | |
|-----|------|-------|--------|
| 教科 | 芸術 | 年度 | 平成31年度 |
| 科目名 | 書道 I | 学科 学年 | 食物科3年 |
| | | 履修単位 | 2単位 |

1 学習の到達目標

- 1.小、中学校国語科書写の学習を基礎としながら、書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。
- 2.書に親しむ活動を通して、感性を高め、自己を表現するための書道の基礎的な能力を伸ばしていく。
- 3.書的美しさを感じとる鑑賞の基礎的な能力を伸ばしていくとともに、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 教科書・副教材等

『書 I』（光村図書）

3 学習上の留意点

- 1.授業開始までに、使用する道具を机上に準備しておく。また、授業には筆記用具を持参する。
- 2.道具の管理、片付けをきちんと行う。
- 3.授業開始、終了の挨拶はもちろんのこと、教室への入退場の際も挨拶を心掛ける。

4 評価

1.書への関心・意欲・態度

書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

2.書表現の構想と工夫

書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。

3.創造的な書表現の技能

創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。

4.鑑賞の能力

日常生活の書の効果や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

5 評価方法

上記の4つの観点に基づき、提出作品を中心とし、提出プリントの取り組み内容や、授業への参加意欲、出席状況等を総合的に評価する。

6 担当者からひとこと

高等学校芸術科「書道」の授業では、中国や日本の書の古典にふれて、様々な書表現を学びます。さらに、それらをふまえて自分で選んだ言葉で創作作品を制作します。書道の広くて奥深い世界を一緒に学びましょう。

| 期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のねらい | 考查 |
|---------------|----------------------|--------------------------------|---------------------------------------|---|------------|
| 一学期 | 4 | 仮名の学習 | | | 授業内試験 ① |
| | | ・文房四宝について、磨墨の方法 | 1 | ・伸びやかな線でリズムよく、平仮名、変体仮名の単体を書けるようにする。 | |
| | ・姿勢、執筆法、仮名の基本用筆 | 1 | ・蓬莱切の臨書により、放ち書きや連綿、行書きの基本を学ぶ。 | | |
| | 5 | ・平仮名、変体仮名 | 3 | ・俳句を用いて、連綿や構成を工夫した作品制作をする。 | |
| | | ・蓬莱切の臨書 | 2 | | |
| | | ・俳句を用いた作品制作、展示 | 4 | | |
| 6 | 楷書の学習 | | | | |
| | ・執筆法、楷書の基本用筆 | 1 | ・書体の変遷や様々な楷書の古典に触れ、書の歴史と表現の広さを知る。 | | |
| | ・書体の変遷、様々な楷書の古典 | 1 | ・「九成宮醴泉銘」では、鋭い線と引き締まった背勢の字形を学ぶ。 | | |
| 7 | ・「九成宮醴泉銘」の臨書 | 4 | | | |
| | ・「顔氏家廟碑」の臨書 | 4 | ・「顔氏家廟碑」では、太く丸み帯びた線と、外側に膨らんだ向勢の字形を学ぶ。 | | |
| 二学期 | 9 | 篆刻の学習 | | | 授業内試験 ② |
| | | ・篆刻について、篆書の特徴 | 1 | ・姓名印の作成により、自分の名前の篆書体を知る。また、篆書の特徴をふまえて印稿を作成する。 | |
| | | ・印面整備、検字、印稿づくり | 3 | | |
| | | ・布字、運刀 | 2 | ・正しい運刀で印を刻す。 | |
| | | ・押印、補刀 | 1 | ・でき上がった印は、創作作品などに押印して使用する。 | |
| | ・印箋に押印、展示 | 1 | | | |
| | 10 | 行書の学習 | | | |
| | | ・行書の基本用筆 | 2 | ・行書の特徴である「流れ」を意識して運筆する。また楷書との字形の違いを学ぶ。 | |
| 11 | ・「蘭亭序」の臨書 | 5 | | | |
| | ・「風信帖」の臨書 | 5 | ・「蘭亭序」では流麗さを、「風信帖」では抑揚を意識して臨書する。 | | |
| 12 | 行書の作品制作（四字熟語） | | | | |
| | ・検字、草稿づくり | 2 | ・行書の古典の臨書で学んだことを生かし、自分で選んだ四字熟語を行書で書く。 | | |
| | ・半紙練習 | 2 | | | |
| | ・八つ切り用紙に清書、押印 | 2 | ・発表を通して、自分や他の生徒の作品を鑑賞する。 | | |
| | ・展示、発表 | 1 | | | |
| | 年賀状の制作 | 3 | ・生活の中で毛筆の文字を生かす。 | | |
| 三学期 | 1 | 漢字仮名交じり書の学習 | | | 授業内試験 ③ |
| | | ・様々な線質で平仮名を書く | 1 | ・言葉を効果的に魅せる書表現ができるように、様々な線質や作品構成を学ぶ。 | |
| | ・様々な紙面構成 | 2 | ・自分で選んだ詩文の内容にあった書表現を目指し、書風や作品構成を工夫する。 | | |
| | 2 | ・詩文の選定、草稿づくり | 1 | | |
| | | ・作品制作、押印 | 4 | ・発表を通して、自分や他の生徒の作品を鑑賞する。 | |
| ・裏打ち作業、発表原稿書き | 1 | | | | |
| 3 | ・展示、発表 | 1 | | | |
| | 手紙文の学習（硬筆） | | | | |
| ・手紙の形式、実作 | 3 | ・正式な手紙の形式について学び、実生活に生かせるようにする。 | | | |
| 時数計 | | | 64 | | |
| (55分授業) | | | | | |